

第188回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会例会報告

会長・宇佐神

日時：2014年5月14日（水） 18:00-20:00 場所：学士会館310号室

出席：佐藤（陽）、新川、古山、望月、宇佐神

欠席連絡：遠藤、緒賀、辻井、長塚、村山、山本

1. 2014年6月以降の例会等の日程は以下の通りです。

- ① 6月2日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ② 7月7日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ③ 8月4日（月）17:00— 暑気払い（神保町サイゼリア）
- ④ 9月1日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ⑤ 10月6日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ⑥ 11月3日（月・祝）18:00-20:00 学士会館308号室

2. 議事：

1) 確認事項：

- ① 『21世紀〈経営の倫理〉』の作成について。次回に宇佐神が原案を提示することを確認
- ② 今後の例会における発表と原稿化の第一段階への取り組み  
12月例会における佐藤陽一：「基本的認識と企業の在り方」の概要の作成  
2月例会における辻井清吾：「仏教とキリスト教の倫理上から見た比較」の概要の作成  
3・4月例会における山本毅：「人類的思想の21世紀への歩み」（仮題）  
これらは、発表後、文章化し、『21世紀〈経営の倫理〉』に向けての準備とする。  
例会における全体討議は、次回、全体構想（宇佐神案）の検討と既発表者の梗要の検討。

4) 6月以降の発表者について：積極的にお申し出てください。関連図書を推薦ください。

3. 本日の研究発表：

- ① 発表者：古山英二氏：「経営倫理学という学問について」（添付）に従って報告。特に経営倫理学が欧米的ビジネス倫理を超えた課題を21世紀には担うことが示唆された。  
また、ヤスパースの「枢軸時代」が西欧的技術文明に向けた人類統一に焦点を当てているのに対し、21世紀に人類が共存するためには人格存在としての人類的覚醒において愛における人格的交わりと共同体が新しい枢軸として要請されているとの指摘があった。それは、オリエントに発し、紀元前4世紀ころのペルシャから中国に亘る一大東方文化圏と、それらの共存の上に展開された日本文化の意義の再確認をも要請しているようである。  
（参考文献：ティモシー・ボイル『漢字に秘められた聖書物語』等は東方文化圏が表意文字による文化圏として構築され、展開した背景を示唆している。（添付：第一章「犧」）
- ② 望月雅和：本年度の研究発表大会への部会推薦のその後の現況報告があった。  
「ケアの専門職教育における体験と省察的実践のレッスン——山田わかの人間形成論を契機として——」と題し、レジユメ等による、愛に焦点化した報告であった。（添付資料参照）
- ③ 『21世紀〈経営の倫理〉』の全体的構想については次回に提案の予定：宇佐神

以上